

# 鷺照吟詠会 会報 第二十二号

行 登  
公益社団法人  
関西吟詩文化協会  
公認鷺照吟詠会

## 『春めきて ものの果てなる 空の色』

飯田 蛇笏

### 会長 大取 鷺 照



白鷺連合会創立六〇周年記念吟詠大会が宝塚ホテルで開催されました。全国各地より多数の会員が集結し、『日々楽しく 日々前進』というスローガンのもと、白鷺の会員の絆がより強く結ばれ、素晴らしい大会となりました。

空の色も春らしくなってきました。新年度も始まり、心新たに身の引き締まる思いです。会員の皆さまにおかれましては、健やかに吟詠活動に励んでおられることとお喜び申し上げます。平素は会の運営にご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

さて、コロナが蔓延して今年で三年目になりますが、五月から五類のインフルエンザと同等になり、ようやく日常の生活に戻れると期待しております。

令和四年度は、十月三十日に

鷺照吟詠会の行事では、十一月に新企画として、『見晴らしの丘で詩吟をしよう』と、JR北長瀬駅の近くの「北長瀬未来ふれあい総合公園」で発表会を開催しました。詩吟を知らない方に詩吟を聞いて頂き、興味を持ってもらいたい、というねらいでした。岡山大学吟詠部の合吟から始まり、連吟、和歌などに、駅から降りた方、買い物にいられた方などが足を止め、大勢の方に聴いて頂くことができました。『はじめよう たのしい吟詠』のテキストを五〇

部無償で配布し、公開吟詠で使いました。ZOOMで総楽支部鹿児島教室の皆さんの発表も聞いて頂き、交流もできました。同月開催の「鷺照吟詠会の集い」では、平成二十年関西指導者級吟士権者で、総本部指導部の塩路澄誠先生に『吟詠上達法』の特別講演をして頂きました。吟詠上達のポイント、YUBAメソッドのボイストレーニングのお話を含め、九〇分間熱心に講演して頂きました。本場にお話がとうございました。また、本年一月にはストリートチャイルド支援・チャリティコンサートにも参加できました。コロナ禍の中でも感染防止に努めながら、競吟大会など諸行事も開催することができました。役員、会員の皆様のご協力のおかげと感謝しております。さて、令和五年度は、総本部九〇周年記念吟詠大会が東京・東海地区、関西地区、西中国地区、九州地区の四地区で開催されます。私たちは、十月二十九日(日)アルカイックホールで開催される関西地区(大阪・京都・滋賀・奈良・兵庫・和歌山・岡山・四国)大会に参加します。大会のテーマは「未来につながる『和の心』」です。バス二台八〇名で参加する予定です。奮ってご参加ください。

今年、本部代議員の選挙の

年になっていきます。令和五・六年度の本会の代議員として、大取鷺照・内田菫照・中山瞳伸・多田葦照の四名が選出されました。関西吟詩文化協会の運営・発展のため、二年間お力添えよろしく願います。

最後に、総本部は現在、九〇周年記念吟詠大会に向け、会員一万人復活運動を展開しています。本会も会員増員キャンペーンを実施していますが、三月現在、会員が二三名になり、一年間で新入会が一四名増えました。皆様のご協力のおかげです。ありがとうございます。今年も「仲良く、楽しく、健やかに」をスローガンに、そして「一語一縁」知り合いの人に、一声「詩吟を始めませんか」と声をかけ、詩吟の輪を広げてゆきたいと思っております。一年間ご支援ご協力よろしくお願致します。

### 令和四年度 「鷺照吟詠会の集い」に参加して

岡山中山支部 池上 茂

「鷺照吟詠会の集い」は、私にとっても大切な行事です。私は、鷺照吟詠会のように人数の多い会にとっては、互いの連携を図るため、教室や支部の枠を超えて親睦を図る機会を持つことが大切だと思ってきました。この会も昔は色々と行事が盛んで、教室同士が連携して懇親会や小旅行を行うことなどもありました。しかし会員の高齢化が進み、加えてコロナ禍で逼塞を強いられてきた近年では、そういった親睦機会は随分と減ってしまったように感じます。多くの会員が顔を合わせる機会は、現在では「競吟大会」と「集い」ぐらいしかありません。練習過程で自分の吟の短所と向き合える競吟は、詩吟の上達には大変有益だと私は考えています。しかしながら、競吟大会はどうしても出席者が限られます。一方「集い」は、競吟のような厳しさは乏しい反面、和気あいあいと楽しく参加できる親睦中心の行事です。また、減多に会えない詩吟の仲間達と久闊を叙し合える、大変貴重な機会ともなっています。私は今回の「集い」でも、長い期間お会いできていない方々何人かとお話をすることができ、大変嬉しく感じたとこです。

さて、「集い」そのものへの個人的な気持ちはさておき、今回の「集い」の内容へと話を変わらせます。今回の支部別吟詠では、学生はもちろんのこと、どの支部の会員の方々も、一人ひとりから例年以上にしっかりと声が聞こえてきたように感じられ、皆さんの姿が大変立派に見

えました。また、過去の「集い」でもそうでしたが、衣裳を始め、細部まで手を入れて構成吟を作り込んでくる総楽支部のパワーにも感心致しました。他支部の構成吟では、友情の重みを感じさせてくれた江陽支部や平和へのメッセージ力が高かった梢雲支部、そして地域の偉人を掘り下げた中山支部など、それぞれ気持ちのこもった味わい深い内容だったと思います。

「集い」後半の華、競吟大会優勝者吟詠では、私が習っている教室から何名か出吟されたので緊張して聴いていたのですが、皆さん落ち着いて堂々と吟じられ、我が出番が終わったかのように、ホッとしたのを覚えています。そして、特別講演の塩路先生によるボイストレーニング指導では、詩吟の発声について、これまで考えたことも無かった新しい視点を提供してくださいました。塩路先生は、裏声を使う声帯の筋肉を鍛えることで地声の高音部分も出やすくなる、と仰っていたように思います。自分の吟声をどう作れば良いのか、それを試行錯誤していく上で、折に触れ先生のお話を思い起こしていきたいと考えます。

した。「集い」全般の陣頭指揮をされていた中山先生に尋ねると、大学生の協力も得ながら前日の夜十時頃まで準備をしていたとのこと。頭が下がりました。スムーズな進行の陰には、多くの方々の尽力があつたんですね。有り難うございました。



『日々楽しく 日々前進』  
**白鷺連合会**  
**創立六〇周年記念吟詠大会**  
 岡山梢雲支部 中山 理恵

令和四年十月三十日(日)  
 午後一時〜六時  
 宝塚ホテル・宝寿の間にて

当日は祝典を寿ぐ好天となり、今年度より白鷺連合会会長となられた大取鷺照先生をはじめ一九名が参加しました。バス組・列車組とも予定通り十二時前にホテル到着。豪華なインテリアに心躍らせながら、会場へ向かいました。円卓が並ぶ会場は仕切り板など感染対策も万全です。

開会のセレモニーでは、白鷺連合会会歌の合吟もありました。式典の来賓の先生方のご挨拶では、伊豆丸鷺洲先生の高潔なお人柄と『和と奉仕の心』を体現する会員の団結力を讃えるお話が印象に残りました。

ところで、「お取り次ぎ」という言葉をご存知でしょうか？伊豆丸鷺洲先生が信仰されていた天理教の言葉で、「神様のお言葉をお伝えします」という意味だとか。私は新詩を教室で講習する際に使っていました。が、真の意味を考えるとなく使用してはいたことに恥ずかしい思いがしました。先師の吟詩に対する真

摯な姿勢に心動かされました。  
 秋の詩を吟じ綴る会員吟詠では、男性が『新涼読書』、女性が『秋思』を合吟しました。そして最後に会長・大取鷺照先生が『白帝城』を吟じられました。

来賓吟詠も速やかに進行し、続いて待ちに待った祝賀会の開宴です。オープニングは、京劇風の仮面を瞬く間にチェンジするスピード感溢れる手品のパフォーマンスを興味深く拝見しました。一流ホテルの洗練されたコース料理を美味しく頂いているうちに、各地の工夫を凝らした余興が始まりました。岡山は、バスの中で練習した桃太郎の替え歌と岡山弁クイズを披露しました。

楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。『仲良く楽しく健やかに』親鷺から受け継いだ白鷺の心を子鷺・孫鷺に伝えようとの誓いを新たに散会となりました。

さて余興で好評を博した岡山弁クイズ、皆様も挑戦してみませんか？

- \* DどころでDこんTTT
- \* そけーすけTT
- \* DとDとがDとでー
- \* KからK
- \* インドカレー



「丘のつっぺんで 詩吟をしたよ」

岡山総業支部 窪田 昌子

「ここは見晴らしええなあ」「ここで吟をしたら気持ちいいだろうなあ」

十一月二十七日(日) 十四時〜十六時「見晴らしの丘で詩吟をしよう」という新企画を行いました。

月に「北長瀬未来ふれあい総合公園」が正式オープンするにあたり、「公園で何かやってみたい！イベントしたい！」様々なジャンルの個人、組織の方に公園活用の可能性を問い、市民提案における社会実験に対し、事業助成してもらえらるという募集に申請、採択された企画でした。

コロナ禍で減少した詩吟発表の機会を、開かれた空間で家族や友人、一般の方と共有し、気軽に楽しめる趣味としての詩吟を広めていくにはよい機会だと思ったからです。屋外の見晴らしの丘に加え、雨天・寒さ対策として併設の見晴らしプラザの催事も借りて行いました。

当日は、十一月の終わりにも関わらず、暖かい一日でした。まず、見晴らしの丘の頂上で開会の挨拶、引き続き会員吟詠です。会員さんも、遊歩道沿いに設けたベンチに座ったり、芝生に腰を下ろしたり、あるいは立つ

たまま岡山大学吟詠部の男女による合吟や近代詩『山のあなた』や『春望』など、支部ごとの合吟を聞き合いました。丘のふもと

の遊歩道には乳幼児連れの親子が、しばしばベビーカーを停め、おそらく初めて耳にするであろう学生吟や詩吟を聞いている姿も見られました。

その後、会場をみはらしプラザ内に移動して、『はじめよう 楽しい吟詠』のテキストを使い、和歌『秋来ぬと』と漢詩『川中島』の公開吟詠を大取会長が行いました。一般の方にはこのテキストを配布し、おみやげ(除菌シート)を渡しました。この時おじいさんと三輪車に乗った幼児が入ってきて、しばらく一緒に大きな声を出してくれました。

幼児から高齢者まで公園を利用する市民の方が、日頃触れることの少ない詩吟に出会い、声を出す(吟ずる)ことで、ひと時でも生活に潤いができればいいですね。

その後も引き続き、会員吟詠です。まずは初めての試みのオンライン吟詠。九州地区の大部分、宮崎、鹿児島教室の方々の連吟や独吟が催事場の大型スクリーンに映し出され、岡山会場の皆が拝聴しました。最後の方の吟がオンラインの不具合で中断されてしまいましたが。

梢雲(旭教室)支部の『桃太郎』

の構成吟は人ひとり入るほどの大ききの桃が割れて…。一般の方にも馴染みやすい吟題で、見ているこちらもとても微笑ましくなりました。岡南、中山、江陽各支部の方々の独吟、連吟などが次々と発表されていききました。総楽支部は、黄色い生地に毛筆で『総楽 吟』と書かれたお揃いのTシャツで、古詩を披露しました。参加者は一般二二名を含む一二〇名でした。皆さんの熱吟の数々、バラエティーに富んだ吟発表の場となり、盛会のうちに閉会となりました。

公園の社会実験という初めての企画は、スマホでの登録申請や会場申し込みが不慣れだったため、会場が変更になったり、WEB環境が整っていなかったりとハプニングもありました。会長はじめ企画委員、WEBにお力添え頂いた方々のご協力のおかげで成功に導くことができました。ありがとうございました。

公園で詩吟をする、くつろぐ人もいる、「え、詩吟しているよ」「私もやってみる」と人々が集い、吟にふれあい、仲間、友だち、初めての方とも楽しく交流し合う、未来にはそんな光景も描けるような「北長瀬未来ふれあい総合公園」での『見晴らしの丘で詩吟をしよう』の企画でした。



**白鷺連合会  
浜松吟行会に参加して**  
岡山皇月支部 内田 順子

令和五年二月二十三日、「富士山の日」にちなんで開催された、白鷺連合会・浜松吟行会に大取会長、中山副会長、河田理事と私の四人で参加しました。

会場は、焼津市にある「ホテルアンビオ松風閣」。総ガラス張りの会場に入るなり、目に飛び込んできたのは、どこまでも青々と広がる駿河湾とその向こうの伊豆半島です。その雄大な景色にあちこちから感嘆の声が聞こえます。海を見ながらも「何処？何処？」と目を皿のようにして探しているのは、勿論富士山。厚い雲に姿を隠し、全く視界に入っていない苛立ちが、周囲に漏れている溜息から察せられます。

午後三時、岩間総務局長の開会の言葉で交歓吟詠会が始まりました。他の会の会員さんと二人一組で、あらかじめ決められた漢詩を吟じて行くうちに富士山が徐々に姿を現し、関心は吟よりも富士山です。シャッターがあたりこちにありました。

大トリである大取会長が吟じられる時には、富士山は雪を頂く姿をはっきりと現し、背後に見えるその雄姿と会長の熱吟が

相まって最高の舞台をなし、会員一同釘付けになりました。

懇親会が始まるまでの一時間の休憩（入浴時間）の間、私達は周辺を散策し、夕日で仄かなピンク色に染まる優しい富士の姿を、寒さも忘れて暫し眺めていました。

十八時半から吟行会のメインイベントともいえる懇親会が始まりました。コロナ対策のため会員同士の間隔が広くとってあるテーブルには、一人ずつ大きな船盛りが準備され、見るからに美味しそうです。

二時間の予定ですが、私達は日帰りの為、ご馳走に後ろ髪をひかれながらも、早々に退場し帰途につきました。慌ただしい日帰り旅行でしたが、四年ぶりの吟行会で懐かしい吟友に会い、美しい富士山も見られ楽しい一日となりました。

準備を下さいました浜松鷺長会の皆様はじめ役員の皆様には大変お世話になり有難うございました。富士山が顔を出してくれ、さぞかし安堵されている事と思います。

次の吟行会には、私達の会からもっと沢山の方々が参加され、吟友の絆を深める事ができれば、詩吟の楽しみもより大きくなると思います。



### 『曹操と孔明』に思いを馳せて 岡山有朋支部 安倉 宏明

令和五年一月二十九日、西川アイプラザでチャリティーコンサートが開かれ、私たち関西吟詩文化協会公認鷺照吟詠会は構成吟『三国志の英雄』曹操と孔明』を披露して多くの観客を魅了しました。

特に、石田氏は、非凡な才能を発揮した曹操のみならず、闘志を迫真の演技で、また竹原氏は、曹操と孔明の英雄二人の軌跡が深くイメージできるようなナレーションで、さらに佐藤氏は、

忠義の士である孔明の最も有名な『出師表』を観客の体に染み込むような朗読で演じられ、構成吟に彩（いろど）りを添えてくださいました。私は会場を出る時に、余韻に浸りながら次のような思いになりました。

舞台や照明・音響係の連携も素晴らしかった。中山副会長が何日もかけて制作された舞台衣装がステージに映えていて、構成吟が一層奥深く感じられた。四度の練習を通して、みんなの気持ちの一つになっていた。だから、観客を魅了する構成吟になったのだ、と。

話は変わりますが、翌日二人の英雄『曹操と孔明』に思いを馳せていた時、地域にある中学校の校長から、「学校運営協議

会制度」を始めるので是非とも「コーディネーター」をして頂きたい、と熱い思いで依頼され、

この大役を受諾しました。私は、小中学校・保護者・地域住民等が協力して「どのようにして地域の子供を地域で育てていくのか！」という構想を練りました。

そこで、進学などで都会に出た若者がこの地域に帰って来ない、という厳しい現状から「目指す子供像を掲げ、大人になった時、この地域で生活したいと思う子供の育成」を提案しました。現在は協議会の組織作りをしています。

高齢者の仲間入りをした私ですが、曹操のように老いても気概を失わず、時代は令和となりましたが、孔明が劉備にいつまでも忠義を尽くしたように、私も中学校長に忠義を尽くして、地域の子供たちの将来のために、汗を流していきたいと思っています。

最後になりましたが、今年のチャリティーコンサートのタイトルは『ウクライナの子供たちに未来と夢を』でした。今もウクライナの子供たちの悲惨な状況が報道されています。一刻も早くロシアの侵攻が終わるよう、今こそ国際社会は英知を結集しなければならぬ、という強い思いになりました。



### 令和四年年度 鷺照吟詠会競吟大会報告 鷺照吟詠会事務局 河田 博行

コロナ禍により中断していた前期／後期単独での競吟大会が三年ぶりに開催されました。

前期競吟大会は五月十五日（日）、後期競吟大会は九月二十五日（日）にそれぞれ岡山県生涯学習センターを会場として、各部門

での熱吟が競われました。（成績結果は別記参照）この三年間、コロナ感染防止対策として、弁当の一括手配中止や出吟者によるマイクへの除菌シート装着等、参加者にはご不便を強いていますが、皆様のご理解とご協力により、無事に運営出来ており、感謝申し上げます。



【栄えある優勝者 喜びの声】  
新人・初段の部 優勝

岡山中山支部 本郷 田鶴子



この度、鷺照吟詠会競吟大会  
新人・初段の部で優勝という栄  
誉を賜り、大変光栄に存じます。

新型コロナという未曾有の災  
禍の中、注意を払いながらの大  
会でした。今回の吟題の『白帝  
城』は、二年近く練習をしてい  
る詩ですが、ともすると高音が  
出づらく、音が下がり気味に  
なったりします。先生からは、  
最初の出だしがとて大切なの  
で十分息を吸い、しっかりと声  
を出す様に御指導して頂きまし  
た。

私は今まで、とにかく声を出  
す事を重視してきました。しか  
し最近、講演や諸先輩方の話  
を聞く事により、詩をどのよう  
に表現していくか、そのために  
は何度も読み返して、詩の心を  
十分に理解する事が大切である  
と気付かされました。とても難  
しい事なのですが、今後の目標  
とし、練習を重ねて参りたいと

存じます。体調に留意しながら、  
和歌、俳句、新体詩にも挑戦し、  
精進していきたいと思っております。

これからも御指導のほど、よ  
ろしくお願い致します。

華頂の部 優勝

岡山瀬戸支部 棚田 公夫



令和四年五月十五日、岡山県  
生涯学習センターに於いて、久  
しぶりの前期競吟大会が開催さ  
れました。初めての会場で、立  
派な会場だと感じましたし、先  
生や役員の皆様、コロナの関係  
もあり、お世話をして下さる  
方々は本当に大変だな、と有り  
難い気持ちになりました。開始  
時間前には、良く知った方や忘  
れかけた方から声をかけて頂  
き、近況報告や詩吟の練習のこ  
となど、色々和気な話ができ  
て嬉しかったです。

内田菖照先生の開会の辞に始  
まり、今回、私は華頂の部に出  
吟しました。欠席者が一名おり  
出吟者七名で競う中、優勝の栄

誉を頂き、身に余る光栄です。

瀬戸支部では、石原先生の奥  
様が体調を崩され、看病等長時  
間手が放せない状態で、三年近  
く詩吟の練習はできていません  
が、岡南支部の坂本先生と青木  
先生の教室に参加し、ご指導し  
て頂いております。途中から  
コロナの問題で公民館での練習  
ができなくなり、青木先生が私  
財を提供して岡南第二教室を始  
められたため、そちらで熱心で  
楽しくご指導頂き、お世話にな  
りました。坂本先生もお忙しい  
中、時々第二教室に来て頂きご  
指導頂いております。

この度の私の優勝は、坂本先  
生、青木先生のご指導があり優  
勝できたものと感謝しております。  
今後ともよろしくお願い致  
します。

壮年I部 優勝

岡山梢雲支部 川村 洋子



『舟中聞子規』という吟題で出  
吟しました。これは、ほととぎ  
すの鳴く声と四季の移り変わり

に聞き入る詩です。毎年、出る  
ことに意義があると何回も同じ  
吟で出場しています。

コロナ禍のため教室もお休みに  
なり、声を出す機会が減り今  
更ながら思いきり声を出せる場  
があるということは、とてもあ  
りがたいことだと気付かされま  
した。

私はマイクの使い方が上手で  
はなく、深井先生に何度もご指  
導を頂きました。今回はマイク  
との距離に注意する事ができ、  
その点は自分でも良かったと思  
いました。一方で、声の安定と  
高音になると苦しくなるなど、  
反省点もあります。練習日に基  
礎からご指導頂き、一步一步で  
きることを進めていっております。

これからも健康に気を付けな  
がら、教室の仲間と共に楽しく  
お稽古を頑張ります。

最後になりましたが、今回は  
本当にありがとうございました。

壮年II部 優勝

岡山梢雲支部 今井 彩乃



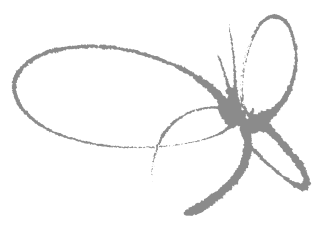
このたびは身に余る賞を頂き  
ありがとうございました。詩吟  
が何かわからぬままに入会して  
から早一〇年が経ちました。何  
をしても一〇年ばかりです  
ね。今は少し楽しくなりました。  
歌謡曲を六〇年位歌ってきて  
いろいろ感じたこと、思ってい  
ることをお伝えします。

○詩吟は詩が先で吟法で歌う  
○歌(民謡、歌謡等々)は音が  
先で詩を歌う  
詩吟と歌は全く違います。

また  
○体は楽器である  
・中肉・中背、顔形は卵形  
顔の相が良い人に優勝者が多  
い

・小柄で細い人は高音で細い声  
情感が伝わりにくい  
・大柄で顎が張っている人は、  
大声でよく声が出るが情感が  
乏しい

○声質、音色が良く感性がある  
こと



声質、音色はご先祖様から頂いたものなので、変わりようがなく天性のものです。

(一概には言えませんが、そんな傾向があるかと思えます。)

五千曲以上の作曲をした戦後の歌謡界を代表する作曲家の一人、船村徹先生。私は先生の曲が好きでよく歌いました。ある日、鼻歌で『ひばりの佐渡情話』『おんな道』を歌っていて、「これは詩吟の吟法の〇〇番ではないか?」という新発見に鳥肌が立ちました!! 船村先生は何でも曲にしてしまう人!! 今、生きていらつしやればお聞きしたい気持ちです。神様は本気で向き合っていると教えてくれるから不思議!! 私は何度も何度も神様に教えて頂いています。毎日が感謝でいっぱいです。

上級の部 優勝

岡山江陽支部 川根 幾恵



『望海』は私にとってなじみのある吟です。それだけに以前の「癖」が抜けず、「晴れ」のアク

セントに苦労しました。正しい表現を習得しようと繰り返し練習し、「できるようになった」と思っても、人前で吟ずるたびに失敗しました。

今までも、緊張で体に余計な力が入り、空回りすることが度々ありました。どうしたら「平常心」でいられるのでしょうか。「平常心」、「普段の私、普段の吟」…。『普段の私、普段の吟』なら満点なんてあり得ません。よくて六〇〜八〇点というところ。思えば、「それでいいんだ」と思うと、少し心が軽くなり、力が抜ける気がしました。

詩のイメージは、岩場に大波が繰り返し打ちつける某映画会社の映像です。空は快晴、強く向かい風が吹いています。吟ずる直前、頭の中にはこの映像とともに、先生が加えられた「ザバン、ザバン…」という音が響いていました。向かい風を感じながらマイクの前へ。わずかに悪い癖が出たものの、「いつもの私の吟」、上出来でした。「いつもの吟でいい」が「いつもの吟がいい」と思えるように、普段から詩の世界に思いを込めて、一吟一吟を丁寧に吟じていきたいと思えます。いつかそれが「平常心」につながると信じて。

合吟の部 優勝

岡山大学吟詩部 本田 雄也



岡山大学吟詩部の本田雄也と申します。この度は、鷺照吟詠会競吟大会・合吟の部において、優勝の栄誉を頂きましたことを大変うれしく思います。師範の木谷秀史先生をはじめ、鷺照吟詠会の諸先生方のご指導があったからこそ、手にすることができたのだと思っています。ありがとうございます。

さて、私たちは全員、大学に入学してから詩吟という文化に励んでまいりました。そんな詩吟を愛好する私たちにとっての脅威であったのが、新型コロナウイルスでした。大学から活動を制限され、十分な練習時間を確保できませんでした。特に連合吟についてはその感染リスクの高さから、とりわけ練習することが認められず、不甲斐なさに苦しめられた時期が私たちにはありました。その流行が僅かながらも減少しつつある今、ようやく連合吟の練習が満足にできるようになりました。今回の大会には吟詩部として数年ぶりに合吟の部に出場することができ、詩吟を楽しめる機会というのは当たり前にあるものではないということに改めて思い知らされました。

今回の結果は栄誉あるものですが、私たちはこの結果に甘んじることなく、更に練習を積み重ねる所存です。次に皆様の前で登壇する際には、今回以上にエネルギーッシュで迫力ある詩吟・合吟を披露することができればと思っています。これから岡山大学吟詩部に対しまして、ご指導のほどよろしくお願致します。

昨年九月初旬、松尾芭蕉が句に残した佐渡島を旅しました。承久の乱で敗れた後鳥羽上皇は島根県の隠岐島に送られ、子息の順徳天皇が配流された島が佐渡島です。天皇の行在所、黒木御所は松や杉の木の皮を剥がず

俳句の部 優勝 『荒海や…』の佐渡を旅して 岡山総楽支部 船原 克己

御所は松や杉の木の皮を剥がず



に使った建物で、黒い色をして粗末に見える一方、堅牢な住まいだったろうと思われま

真野地区にある御陵は、四六歳で崩御され火葬に付された場所。今は宮内庁に管理されています。太い杉の木が林立し、苔生す静寂な空間でした。御陵の山道脇に石碑が立っており、それは吉田松陰作、一二行の七言俳律とその解説でした。「天子に味方するものは誰一人いない。六百年後の春、遠方より臣下が参りました。(訳文の一部)」若き松陰の熱い尊王の昂ぶりが躍る内容です。

翌朝、島の北端に移りました。日本海の水平線はくっきりと、寄せるうねりはゆっくりと押し寄せ、眼前の奇岩を白い飛沫で繰り返し洗っていました。漁港の防波堤先端に立って、芭蕉が句を詠んだ出雲崎の方向向かって『荒海や…』を繰り返し吟じました。佐渡旅行の目的を達成し、しばし爽やかな気分になりました。

九月二十五日、後期競吟大会で、『：佐渡によこたふ 天の河』を発表して私の佐渡の旅は終りました。

近代詩の部 優勝

岡山総楽支部 池上 美枝子



学生時代から尊敬していた片山先輩がお亡くなりになってから、詩吟に前向きになれず毎週の練習も休みがちでしたが、教室の皆さんの励ましにより何とか続けてこられました。

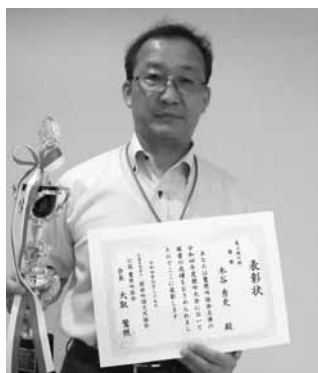
猛暑の中戦った、高校野球優勝校の監督の言葉「青春は密」を聞き、短大の頃の講師永井先生から教わった部活の醍醐味が甦り、久しぶりに競吟に挑戦することにしました。

当日、近代詩にエントリーされていたのは二人のみ。お相手は岡山大吟詩部OBの方。一瞬脅威に感じましたが、相手が誰であれ、私は今ある自分の実力が出せたらとの思いでマイクに立ちました。間のとり方、鼻濁音には気をつけたものの「詩

中の景、詩中の情、生じ来たりて、：詩中の人」とはなりきれませんでした。しかし、思いっきり吟ずることができました。因らざるも優勝という栄誉を授かりました。嘗て片山先輩と五度目の挑戦（連吟）でやっと手に入れた優勝の感動には及びませんでした。

最上級の部 優勝

岡山有朋支部 木谷 秀史



今年の競吟大会において、名譽ある賞を頂き、ありがとうございます。毎年、どの吟を選び、自分の気持ちを詩の中に投じて吟じるかに悩みますが、今年もいい詩に出会うことができ、ありがたいと思っています。

ありがたいのはいい詩に出会ったことだけではありません。今年も感染症の拡大により、詩吟を楽しむこと自体が貴重なことであり、大会でみなさんと

出会うことができたことが何よりもありがたいことだと感じています。

「ウイズコロナ」が一層進み、三月十三日からは、マスクの着脱は個人の判断になります。何気ない平凡な日常が早く戻り、競吟をはじめ諸行事で、もっと多くのみなさんと一緒に詩吟を楽しむことができる日を期待しています。

岡山県連合会

競吟大会・吟詠研修会報告

岡山県連合会事務局 石田 隆

令和四年度の関西吟詩文化協会岡山県連合会の競吟大会並びに岡山地区吟詠研修会を、八月七日に天神山文化プラザホールにて開催しました。コロナの感染拡大が収まらない中、本年度もマスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保等、感染防止対策に万全を期しながらの大会及び研修会でした。

競吟大会には五七名の参加がありました。総本部の競吟大会にシニアの部が増設されたこともあり、本県でも本年度よりシニアI部（八〇歳以上で指導資格を有しない者）とシニアII部（同指導資格を有する者）を加えました。これを機に、八〇才以上の方も競吟大会に積極的に参

加して頂くことを期待しています。

各部ごとの参加者数は後述の通りですが、本県も他の県同様、会員の高齢化、経験年数の長い方の増加が顕著であり、新人、初級、上級あたりの参加者が少なく、逆に最上級の部は一八名の参加がありました。それだけレベルの高い大会とはなりませんが、若い方や経験年数の浅い方の参加を増やす意味でも、会員増加は必須であると感じました。

各部ごとの参加者

- 新人の部……………一名
- 初級の部……………一〇名
- 上級の部……………四名
- 師範代の部……………四名
- 準師範の部……………四名
- 和歌の部……………五名
- シニアI部……………四名
- シニアII部……………七名
- 吟士権の部……………一八名

ご参加頂いた会員の皆様には、本年度も熱の入ったレベルの高い吟で、素晴らしい練習の成果を発揮して頂きました。ありがとうございます。

吟詠研修会では、総本部より昨年に引き続き指導部副部長の藤本曙冽先生、また新たに秀詠グループの玉越寛隆先生にお越し頂きました。和歌新教本の『世の中に』と『東海の』の講習をして頂いた後、藤本先生には和

歌の朗詠について、詳しい資料をもとに墨字と線譜の違い、漢詩と和歌の読みの違い、和歌の吟譜等について丁寧にご説明頂き、今後の和歌の吟詠に関して大いに参考になるものでした。

吟詠実技研修では、例年のように、会員を対象にどうすれば吟が上達するか、個人個人の吟に合わせて丁寧にご指導頂き、充実した研修となりました。来年度はぜひ自分もご指導頂きたいと思われた方も多かったのではないのでしょうか。

最後に、本部講師吟詠としてお二人の先生方に範吟を頂き、研修会を締めくくって頂きました。素晴らしい吟に触れることで、自分の吟を見直し、また練習に励みたいと思うと同時に、この素晴らしい吟詠という文化をより多くの皆様に伝えたいという思いを強くしました。

競吟大会に向けて練習を重ねてこられた皆様には、今後ますますのご精進・ご活躍をお祈り致します。本年度の開催にあたって、多くの理事・役員の方々に様々なところで献身的にご協力頂きましたことに深く感謝申し上げます。

来年度こそ（昨年度も同じことを書いていますが）、コロナが収まり、会場内でも思いっきり声が出せる研修会ができることを切に願っております。





普及推進事業岡山地区吟詠

公益社団法人 関西吟詩文化協



普及推進事業岡山地区吟詠

公益社団法人 関西吟詩文化協



【栄えある優勝者 喜びの声】  
初級の部 優勝  
岡山中山支部 中尾 恵



令和四年八月七日(日)、岡山県連合会競吟大会・初級の部にて優勝させて頂き大変嬉しく思っております。

私は舞台上立つとドキドキが止まらず腹式呼吸が上手に出来ず、鷺照吟詠会前期競吟大会の時は、『太田道灌』の転句で声がうわづり音を外しました。ポリドール吟詠大会でも同じような結果でした。

どうしたらお腹から声が出すことができ、音を外さないのかと、ネットのボイストレーニングを手当たり次第検索して練習を試みたり、お稽古の時色んな方々にコツを尋ねたりもしました。音程が不安定なので八本から七本に下げたの練習も続けました。

ある日、八本でいつも音を外すのに、九本だと苦手な二五番の山の降りるところの音が外れない事を発見しました。ド

キドキすると音程が上がりますが、流石に九本以上音程は上がらないのではと思い、「ヨシ！今回は九本で挑戦してみよう」と決めました。

岡山県連合会で優勝すると、ひよっとして壇上にて研修をして頂けるとの事で、と密かに思い続け練習を重ねました。あの壇上で研修をして頂くと、今までのドキドキが吹っ切れるかもしれないと期待しました。中谷 忍苑先生・古賀千翔先生・藤本 曙冽先生の研修を間近に観てい

つか受けてみたいと思いつけていました。今年は、藤本曙冽先生と玉越寛隆先生でした。研修会の前に、中山先生からモニターのお声を頂き、胸躍らせながら壇上にあがり指導をして頂きました。玉越先生から重心を下に保ち、どっしりと芯のある体制で声の出し方など、丁寧なアドバイスを頂きました。その後でビデオを観ると恥ずかしい出来でした。当日は着物姿でしたが、何故か裾が吊り上がっている様になっていました。座ったとき裾が乱れないように裾にクリップを付けていたのに、そのまま壇上に上がったのだと分かりました(笑)。吟詠指導をして頂いた事も、慌てて気が動転して失敗した事も記念になりました。

楽しく練習を重ね、出来ない事が少しずつ出来るようになり上達していけば、これから先もずっと楽しめる、詩吟に出会えて良かったと思っております。いつも気軽にお声をかけて下さる鷺照吟詠会の皆様に出会えて本当に感謝しております。これからも精進致しますので宜しくお願致します。

上級の部 優勝

岡山中山支部 佐藤 昌子



この度は令和四年度 岡山県連合会競吟大会・上級の部において優勝の栄誉を頂きありがとうございます。今回の出吟題は『山行』(杜牧)です。私の好きな吟のひとつです。石ころだらけの険しい山道だが、前方を見渡すと真っ赤に燃える紅葉が目の前に広がり、その花は最も美しいとたとえられる梅の花よりも鮮やかだと詠っています。少し大きなよな気もしますが、とても希望に満ちた前向きな詩が大好きです。出だしの「遠く寒山に登れ

る

謝申し上げます。ありがとうございます。ございました。

準師範の部 優勝

岡山江陽支部 藤原 美喜夫



今年猛暑だったせい、年齢のため体力が落ちたのか、岡山県連合会競吟大会（八月七日）が近づいてきても吟を練習する気が全く湧きませんでした。耳の感覚が不安定で、どれが自分の本当の声なのか、全く判りません。そして競吟大会当日、マイクの前に立って吟しても緊張もあり声（耳の感覚）と身体バランスがバラバラで、雲の上に乗って吟しているようで、自分自身で納得できるものではありませんでした。

「ふうりん」の大山が、ダイナミックに出来ずに苦勞しました。何度も先生のお手本を聞いて練習するうちにフツと出て、そこからは調子良くなっていたので嬉しかったです。いつもご熱心にご指導して下さる先生方や、大会の為に尽力下さった役員の皆様方に感

吟詠研修会では藤本曙冽先生の実技指導を受けたのですが、競吟の時と同じで雲の上で吟じているようでした。でも終わってから「指導を受けると全く吟が変わるネ」と言ってく下さる方がいて、藤本先生のパワーを頂いたのかと思いました。

また、先日（二月）一本しか残っていない歯を抜き、総義歯になり、これからどんな発声になり、どんな吟になるのか、不安でもあり楽しみでもありません。まず食を正し、気力を養い自然に沿って研鑽していきたいと思います。ありがとうございます。合掌

和歌の部 優勝  
岡山中山支部 佐藤 昌子

和歌の部 優勝

岡山中山支部 佐藤 昌子



『銀も』は、子を思う親の愛を歌った優しさ一杯の和歌です。いつも先生から、和歌は優しく吟じなさいとご指導を頂きます。私の和歌は漢詩のようだと、ご注意を受けます。語尾に力が入り過ぎて厳しく聞こえるとのこと

入りが付き、老後テレビばかり見て座ってはいけななと思えました。少しずつですが、体を動かすように努力しました。そのお陰もあってか、元気がなりました。ほんのちよつとの気が付きがあれば、人生も良い方向に変わっていくのかもしれない

人でハイどうぞ、となるとあつという間に漢詩調になってしまっています。これプラス感情を込めてとなると、更にハードルは上がります。

余談になりますが、ポリドールの大会に行ったときの事です。和歌だから感情込めて優しく、と自分なりに意識して歌つたら、廊下で出会った中谷裕苑先生から、「もつと声を出しなさい。皆さん舞台上上がると声を出さない。お腹に力を入れてしっかりと声を出しなさい」とご指導を頂きました。厳しいお言葉を頂きましたが、鉛ちゃんも頂き、まさに「鉛と鞭」に感激しました。これ以来、声を出しなさい！この事が私の頭の中で回り始めました。声をしっかりと出し、なおかつ優しく吟じる。この課題は私にはとても難しいものでした。第一に、恥ずかしがらずに思いつき声を出すと、声の出る体づくりを意識しました。声を出すと、声が出る体を作るといふことだと気が付き、老後テレビばかり見て座ってはいけななと思えました。少しずつですが、体を動かすように努力しました。そのお陰もあってか、元気がなりました。ほんのちよつとの気が付きがあれば、人生も良い方向に変わっていくのかもしれない

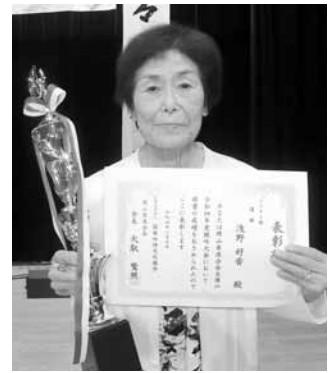
です。中谷先生、ご指導感謝致します。

話は戻りますが、声はしっかりと出して、吟は餅の様に優しく、を意識して練習しました。出だしが下音から入るのも苦戦しました。「しろがねも」のフレーズは結構長くて、息を最後まで続けるのが難しかったです。先生のお手本を何度も聞き、一生懸命練習しました。そのかいあってか、やつと大会前に、大取先生からOKが出ました。ホッとしました。やはり本番ではあちこちとミスが出ました。いつになればきちんと吟じられるか分かりませんが、挑戦してみます。『銀も』とは、長い付き合いになりそうです。天国に行っても「こりゃあ難しいが」って言っているかもしれないね。いつも愛情いっぱいにご指導してく下さる先生方や、大会のためにご尽力下さいました役員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。



シニアI部 優勝

岡山岡南支部 浅野 好香



初めて賞を頂きました。

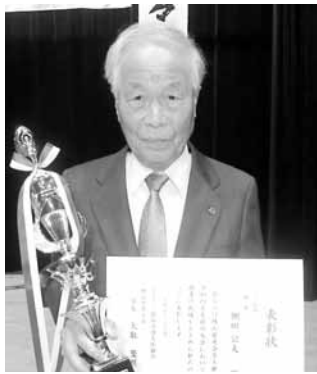
私が、鷺照吟詠会と出会ったのは七六歳の時です。ちなみに入会証には、平成二十七年十一月二十七日と記されています。その後、勧められるままに競吟大会に参加してきました。大学生の透き通るような声に感心しました。ペテラン会員の艶のある吟の素晴らしさに感動しました。その一方で、「自分には賞など無縁！」という想いが増幅していきました。あれから六年。この度の賞は、「シニア部門の新設」という、高齢者に光を当ててくださったおかげだと深く感謝しております。とても嬉しく励みになりました。

私が所属しているのは岡南第二教室で、指導して下さるのは青木琥真先生です。ここでは、吟法の理解に重点を置いています。その一例としては、一つの吟を皆で吟じ、お互いで講評しあうという学習方法です。和や

かな話し合いの中で、吟法の習熟にとっても役立っています。そして特筆したいのは、T先輩の存在です。九〇歳超という年齢を感じさせない声量で、抑揚のある素晴らしい吟を披露してくださり、まさにお手本です。私の成長を支えてくださる教室の仲間にも改めて感謝します。ありがとうございます！

今、優勝のトロフィーを前にして、詩吟と出会えた喜びをかみしめています。これからは、吟の言葉の素晴らしさ、声を出すことの楽しさを周りの人たちにも広め、共に学ぶ仲間を増やしていきたいと強く思っています。

シニアII部 優勝  
岡山瀬戸支部 棚田 公夫



今回もコロナ禍の収まらない中、岡山県連合会競吟大会が行われまして。非常に暑い中、朝早い時間から先生や役員の皆様、準備や途中の換気等、お世話頂きまして有り難うございま

した。月日の過ぎるのはあつという間で、非常に早く感じられれます。今回は、出場をどうしようかと悩んでおりました。コロナ禍でお互いに気を遣い、マスクを着用しながら、岡南支部の青木先生の教室で、皆さんと楽しく、おかしき音階は繰り返し練習し、何度も指導を頂きながら練習しておりました。

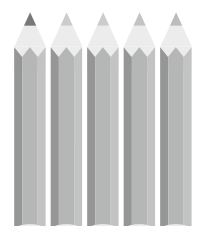
そんな中、やはり大会に出場しないと練習にも力が入らないと思い、シニアII部に申し込み、優勝という栄を頂き大変嬉しく思っております。有り難うございました。また、総本部からお越し頂いた藤本曙冽先生、玉越寛隆先生のご指導により、和歌と吟の指導を頂きました。素晴らしい音程で吟じられ感動し、感謝しております。

吟詠は慎重に落ち着いて、途中からは音程を変えられないのが最初の一節の音程に注意し、今度こそはと思いつきながら吟じましたが、後で録音を聞いてみると、普段の練習の時のように吟じることができていないのがよく分かりました。

今後、私は自動車運転免許を更新するか、返納するかという年齢になり、遠方に行けなくなりますが、吟詠は健康のためにストレス発散にも非常に良く、続けていこうと思っております。

岡山中山支部一宮教室は、過去一番番多い時には二〇人位の会員が在籍していましたが、高齢の方が次々と辞められたり亡くなられたりして、昨年の六月頃には大取鷺照先生を含め、男性七名女性二名の合計九名まで減少してしまい、私たちは会員をいかに増やすかということに苦慮していました。

支部・教室便り



新しい会員が加わり  
四年ぶりの実技発表会

岡山中山支部 一宮教室  
安東 正二

岡山中山支部一宮教室は、過去一番番多い時には二〇人位の会員が在籍していましたが、高齢の方が次々と辞められたり亡くなられたりして、昨年の六月頃には大取鷺照先生を含め、男性七名女性二名の合計九名まで減少してしまい、私たちは会員をいかに増やすかということに苦慮していました。

昨年七月十三日、私が住んでいる団地の老人クラブ「福寿会」の日帰り旅行があり、バスの中で、私が前の職場で一緒に仕事をしていたことのある子供さんのお母さんの須田秋野さんが私の隣の席に座られました。須田さんとはそれまではあまり話をした事はありませんでしたが、須田さんとの会話の中で、須田さん

が現在カラオケを習っておられることを聞き、私も一宮公民館で詩吟を習っていることを伝えました。早速須田さんに「カラオケをされているのなら詩吟も習ってみませんか？詩吟をすれば腹式呼吸が身に付くので健康にも良いし、声もよく出るようになり、カラオケもさらに上手になりますよ」とクラブに入会して頂くようお願いしました。

須田さんは子供の頃、お母さんが詩吟を習われていて、お母さんの詩吟を聞かれていたそうです。須田さんは「ちよっと詩吟も習ってみようか」と言って早速次の週の木曜日の練習に來られ、入会して頂くことができました。

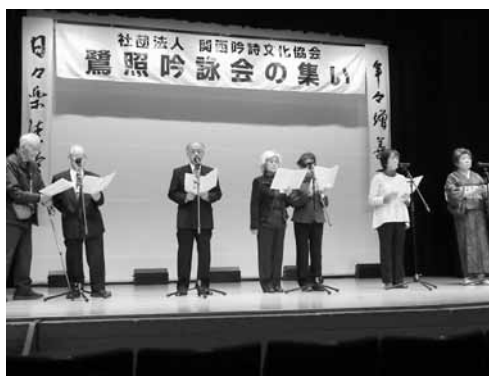
また、昨年の十一月には一宮公民館で練習をしている時、平野佳代子さんが來られ、詩吟を習ってみたいと言われ、即入会して頂きました。それまでは男性七人で女性の方が二人だけだったので少し安心しました。

話は少し変わりますが、コロナ禍で三年間中止となっていた一宮公民館での実技発表会が、感染者減少により、三月十一日と翌十二日の二日間にわたって、今回久しぶりに開催されました。我々一宮公民館で練習している講座のうち、カラオケやコーラス等は親しみやすいが詩



山陽教室は長年、永井先生のご指導のもと、詩吟だけでなくそれぞれの人生を共有する場でした。毎回の詩吟の資料には必ず「ひと言」欄があり、時事ネタや会員のこと、先生の随想で詩吟そのものについてだけでなく、詩吟に向きあう姿勢や生き方が伝わってきました。また、教室や食事会での会話や催しの中で、会員それぞれの経験や趣味などを知る機会もありました。教室では詩吟を味わい、楽しみながらお互いを知り、より良い吟を目指すとともによりよ

く生きるヒントを得ていたと思います。アットホームなそれぞれの居場所でした。昨年四月に、指導は鈴木先生にバトンタッチしましたが、教室の雰囲気は変わりません。豪快な肝っ玉母さんのように見える先生は、実は心優しく繊細な気遣いの方です。長年力強い吟で山陽教室を牽引してきたUさんは現在も教室の予約、連絡、お茶のお世話など、練習環境を整備してくださる縁の下の力持ち的な存在であり、たくさんの在籍された方々を知る主のような存在ともいえます。私Kは二〇数年の休会をへて復帰し四年親しかつたのはUさんだけでしたが、変わらない教室の雰囲気、すぐに馴染み、昔からずっといたかのような顔をして活動しています。それからFさん、洪い良い声でコンクールでも上位の常連です。整体師の資格を持ち、密かに各人の体調チェックをしてくださっていることもあるようです。また、時々遠く倉敷から、美しい銀髪でおしゃれをしてやってこられるU姉は若々しい気持ちをもったチャーマニングな方です。そして、Hさんは教室最高齢。幅広い知見と趣味をおもちの方です。コロナで延期されていますが、弟さんの米寿を祝う大きな会でお祝いに吟じようと、ここ数年『米寿



を祝う』を、温かな力強い声で練習し続けていらつしやいます。九〇歳を超えたお兄さんからのこもった吟をプレゼントしてもらえ、どちらにとつてもなあって幸せなことでしょか。吟界全体に高齢化が進んでいますが、山陽教室も例外ではありません。しかし元氣にかくしゃくと詩吟をされている先輩方は、当教室に限らず私たち後輩のお手本です。もちろん私たちも同様に私たちの後輩のお手本でありたいと思えますが、「こんな吟をしたい」「こんな風に歳を重ねて生きていきたい」と思える人が身近にいるのは幸せなことです。各教室や本会で吟を続ける一つの意味であろうと思います。七名と少人数ではありますがありますが、これからも私たちは和気あいあいと切磋琢磨していくことと思います。

さて、十二月今年の集大成の「集い」で発表する構成吟の主役である式子内親王役に、なんと私が決まったのです。なんでも入会順で名簿の若い人、皆が輝けるように今まで大役をやっていない人に、とか言われて。人前に立つことが大の苦手な私には荷が重すぎ、力不足であるとの思いにも関係なく、舞台衣装

山陽教室で学ぶ  
岡山江陽支部

山陽教室  
川根 幾恵

吟は難しい、というイメージがあり、なかなか詩吟クラブに入会して下さる方が少ないと感じていました。そこで今回の実技発表会では、詩吟に興味のない人にも親しみやすい歌謡吟詠五曲を発表することにしました。これを聞いて一人でも多く詩吟クラブに入会して頂けたらと思っています。



会員増員のきっかけはどこに潜んでいるかわからない、ということも肝に銘じ、これからもあらゆる機会を通じて、会員の増員に努めていきたいと思えます。

構成吟の主役なんて  
岡山総楽支部 総社教室  
佐藤 真知子

定年退職後、同僚の剣持さんに声をかけて頂き、総社教室に通うようになり六年が経ちました。詩吟は腹の底から声を出すためストレス解消ができ、健康に良いのではと思ったのが入会のきっかけです。ところが、通い始めるとなかなか思うようにいかず、声は出ない、音程もとれず、難しいことがわかりました。上達するには競吟大会に出たら、とのアドバイスを受け、剣持さんと連吟で「鳳凰台」に挑戦することを決めました。カラオケボックスや酒津公園での練習。今思うと、発声も吟法もまるでなっていない私を何度も誘い出し、指導して頂いたことに感謝致します。そして、大会に出場し多くの方からの刺激を受け、吟への思いが強くなりました。

さて、十二月今年の集大成の「集い」で発表する構成吟の主役である式子内親王役に、なんと私が決まったのです。なんでも入会順で名簿の若い人、皆が輝けるように今まで大役をやっていない人に、とか言われて。人前に立つことが大の苦手な私には荷が重すぎ、力不足であるとの思いにも関係なく、舞台衣装

も準備され、逃げ出すわけにもいかず、引き受けることにしました。

合同練習では、暗記したつものセリフが出てこなかったり、和歌の出だしの音が取れなかったり非常に焦りました。また、田辺先生からは「内親王はうら若き二〇歳の娘、かわいらしく声のトーンを上げて」と言われ、ぶりっこしてトーンを上げると、「いいじゃん」と思われぬ良い反応に快くし、セリフと和歌は扇子に張り付け、どうにか本番を切り抜けることができました。集いの発表後、ホッとしました。集いの発表後、ホッとしました。集いの発表後、ホッとしました。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

今回の構成吟でチャレンジする機会を与えてくださった総社教室の皆さんに感謝致します。今後とも教室の皆様と楽しく吟を学んでいきたいと思っています。

自由投稿

ポリドール競吟大会に参加して

岡山岡南支部 青木 耕二

令和四年度、第四十九回ポリドール吟詠大会の予選大会と決勝大会の感想です。

コロナ感染症拡大と私の白内障手術のため、三年ぶりに出場しました。令和四年六月四日早朝、坂本先生が運転してくださいながら和気あいあいと会場に向かいました。三木サービスイリアで休憩し温かいコーヒを飲み、広場があったのでしっかりと声を出して緊張を解きました。約三時間三〇分かかり、無事に会場に到着しました。

私の出吟するシニアの部まで時間があつたので、今井さんと発声練習をしました。いよいよ私の番です。マイクの前に立つと体が震える感覚がありました。CDの伴奏が聞こえてくると不思議と落ち着いて吟詠ができました。審査の結果、決勝まで進み全体の四位で終わりました。

さて、いよいよ決勝大会が十月十日(祝日)に開催されました。今回も坂本先生が車で送ってくださいました。いつもの通り一生懸命吟じましたが、決勝

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

今後とも御指導の程よろしくお願い致します。心より感謝致します。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。



大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。

大会はレベルが高いので、私は入賞に終わりました。まだまだ勉強することがあると思います。決勝で吟をしたので練習を重ね頭張っていこうと思います。



式子に恋して

岡山総楽支部 田辺 博通

歌人式子内親王の和歌を教本Dに初めて見たとき、「山深み」の和歌の【備考】に「老境の中で詠まれ、「遁世に近い」生活とあり、【参考】には未婚の内親王が務める斎院・斎宮のことを知っ

た。果たして内親王の生涯はどんなものだったのか。幼少から賀茂の斎院に入り隔絶した生活を送り、父後白河院の波乱万丈の生涯に翻弄された生涯の中で、多くの歌を詠むことを続けてこられた。その印象は「孤独で憂い多き歌人」であったり、「薄幸な女流歌人」であったりした。しかしあの小倉百人一首の選者である藤原定家が、内親王のお側近くにいたとか、彼の選んだ内親王の一首が「玉の緒よ」という激しい恋の歌であった。内親王の思い人は定家だったか。いや法然上人との相聞歌もある。内親王は死を前に再会を果たしたく手紙をしたためる。が、しかし、法然の拒絶の文は大変な長文だったとか。法然への思慕の情は内親王の本心であり通じ合っていたのか。

こうした式子内親王のドラマチックな生涯に対する興味は尽きないものの、果たして発表できるような構成吟になるのか。まず漢詩がない。定家と法然に加えてどうしても父後白河天皇が欲しい。「日本一の大天狗」とか「比類なき暗王」というイメージの後白河院ではなく、父親としての優しさも入れたい。文献をあさり、その都度メモに書きコピーを取り、前後構わず取り出していく。私の構成吟作成の工程は、彫刻家が塊りの粘

土から削り出す崇高な芸術とは違い、あちこちの綺麗そうな花を花瓶にさして、ハサミで切ったりあとから挿したりする感じで、決して誇れるものではない。最初の原稿お披露目から教室内で推敲を続け、また配役を決める過程が実は最も充実した期間となる。原稿の修正も数回を経て、最終的に三教室の合同練習会で最高潮となる。果たして自分の思いが皆に伝えられたのだろうか。こうして詩吟を楽しみながら皆と和気藹々の日々を送る、総楽支部の目指しているところです。



「なんでもありの発表会」に参加して

岡山総楽支部 白神 陽子

NPO 法人岡山市子どもセンター主催によるつながり事業中の表現活動の場として、「なんでもありの発表会」が令和五年一月十五日岡山市立市民文化ホールで開催されました。弾き語りやダンスもあれば手作りの劇もあり、老若男女の十団体が見事なパフォーマンスを披露し、「詩吟を愛する仲間たち」として大島教室の有志が、窪田さんのお誘いで参加しました。

私も子育て中には、倉敷子ども劇場の手づくり文化祭に親子で参加した経験があり、舞台上立つ子どもたちのキラキラ輝く目に限りない可能性を感じると、懐かしくて、嬉しくて、すべてのパフォーマンスに拍手喝采をしておりました。

一緒に参加した男性陣は遠い昔の子育て、孫育てを振り返り、「自分はこんなこととしてやれなかった」と後悔しきり。童心に帰り、舞台と一体化して楽しんでおられました。

一方で、この素敵な空間で詩吟を発表する意義を感じた一日でもありました。男性四人で律詩『春望』、女性二人で近代詩『山のあなた』を吟じました。会場は凜とした静寂な空気となり、

初めて聞く詩吟に会場の人々が聞き入ってくださっていると感じました。

この場に居るキラキラ輝く目をした子どもたちは、なんでも吸収できる多感な頃です。希望的観測ですが、きつと心の片隅に「詩吟」の世界感が届いていることでしょう。終了後、「初めて聞きびっくりしました」と声をかけてくださる保護者の方もいらっしやいました。

詩吟人口が減少している昨今、迅速な結果も急務ですが、今回は種まきしてきたと考えています。いつかは芽が出て花が咲くことを願うばかりです。

今回のような方法も詩吟の普及の一つだと大いに感じた一日でした。そして何より自分が楽しむことが自然で一番良いことではないでしょうか？機会があればまた一緒にさせてください。



令和四年度 鷺照吟詠会 前期競吟大会

令和四年五月十五日(日) 岡山県生涯学習センター

新人・初段の部

- 優 勝 本郷田鶴子(中山)
準優勝 葉廣 千夏(岡大)
三 位 片岡紀久夫(岡南)

二段の部

- 優 勝 細谷 亮太(岡大)
準優勝 青木 朝紀(岡南)
三 位 中尾 恵(中山)

三段の部

- 優 勝 前田 貴一(岡大)

華頂の部

- 優 勝 棚田 公夫(瀬戸)
準優勝 太田 俊六(梢雲)
三 位 福森美津子(中山)
入 賞 小林 桂子(吉照)

壮年Ⅰ部

- 優 勝 川村 洋子(梢雲)

壮年Ⅱ部

- 優 勝 今井 彩乃(梢雲)
準優勝 中尾 栄子(吉照)

壮年Ⅲ部

- 優 勝 林原 茂樹(総楽)
準優勝 虫明 節子(中山)

上級の部

- 優 勝 川根 幾恵(江陽)
準優勝 藤原美喜夫(江陽)
三 位 虫明 隆二(梢雲)
入 賞 竹原 美子(梢雲)

令和四年度 鷺照吟詠会 後期競吟大会

令和四年九月二十五日(日) 岡山県生涯学習センター

和歌の部

- 優 勝 内座由紀葉(岡南)
準優勝 虫明 隆二(梢雲)
三 位 佐藤 昌子(中山)
四 位 川根 幾恵(江陽)
五 位 田中 好子(中山)
六 位 中尾 恵(中山)
入 賞 今井 彩乃(梢雲)

俳句の部

- 優 勝 船原 克巳(総楽)

近代詩の部

- 優 勝 池上美枝子(総楽)

最上級の部

- 優 勝 木谷 秀史(有朋)
準優勝 空 富美子(総楽)
三 位 田辺 博通(総楽)
四 位 池上 茂(中山)
五 位 石田 隆(有朋)

令和四年度 岡山県連合会 競吟大会

令和四年八月七日(日) 岡山県天神山文化プラザ

新人の部

- 奨励賞 塩島 麗子(梢雲)

初級の部

- 優 勝 中尾 恵(中山)
準優勝 本郷田鶴子(中山)
三 位 小川 泰昭(中山)

四位 片岡紀久夫(岡南)  
 上級の部  
 優勝 佐藤 昌子(中山)  
 準優勝 竹原 美子(梢雲)

■総本部  
 新人中間層競吟大会

令和四年十一月十三日(日)  
 エーリック(尼崎)

■ポリドール  
 全国吟詠コンクール決選大会

令和四年十月十日(日)  
 大東市立市民会館

師範代の部

優勝 川根 幾恵(江陽)  
 準優勝 虫明 隆二(梢雲)

初級の部

入賞 宇都宮判代(総楽)

青年の部

優勝 内座由紀葉(岡南)

準師範の部

優勝 藤原美喜夫(江陽)  
 準優勝 青木 耕二(岡南)

初級の部

準々優勝 中尾 恵(中山)

壮年の部

準優勝 池上 茂(中山)  
 四位 内田 順子(皐月)  
 入賞 青木 耕二(岡南)

和歌I部・II部

優勝 佐藤 昌子(中山)  
 準優勝 中尾 恵(中山)

和歌の部

準優勝 中尾 恵(中山)  
 入賞 佐藤 昌子(中山)

和歌の部

準々優勝 内座由紀葉(岡南)

シニアI部

優勝 浅野 好香(岡南)  
 準優勝 中藤 誠三(岡南)

■総本部  
 全国指導者級  
 吟士権者決定吟詩大会

令和四年十二月十一日(日)  
 高槻現代劇場

令和四年度  
 慶祝・吟功賞・昇格・昇段

シニアII部

優勝 棚田 公夫(瀬戸)  
 準優勝 内座 弘子(岡南)  
 三位 嶽 惣爾(中山)

師範代の部

入賞 川根 幾恵(江陽)

■敬老祝

傘 寿 壺阪 光徳(有朋)  
 船原 克丘(総楽)

吟士権の部

優勝 中山 理恵(梢雲)  
 準優勝 内座由紀葉(岡南)  
 三位 木谷 秀史(有朋)  
 四位 空 富美子(総楽)  
 五位 内田 順子(皐月)  
 六位 池上 茂(中山)  
 入賞 坂本 朋義(岡南)  
 入賞 鈴木 一子(江陽)

準師範の部

入賞 青木 耕二(岡南)

喜 寿

白井 厳昭(江陽)  
 田辺 通照(総楽)  
 河本 謡照(総楽)

師範以上の部

七位 内座由紀葉(岡南)  
 入賞 中山 理恵(梢雲)  
 空 富美子(総楽)

■吟功章

古 希 鈴木 厳翔(江陽)  
 高師範 内田 菫照(皐月)  
 中山 瞳伸(梢雲)

■昇格

師 範

青木 琥真(岡南)  
 藤原 瞳桂(梢雲)  
 隅田 峻照(岡南)

二 段

熊澤 勝彦(岡南)  
 三宅 弘子(岡南)  
 中村 浩友(岡南)  
 前田 美月(岡大)  
 葉廣 千夏(岡大)  
 小波 航輝(岡大)  
 前田 鉄兵(岡大)  
 本郷 勉(中山)  
 本郷田鶴子(中山)

準師範

川根 颯照(江陽)  
 今井 瑞華(梢雲)

■昇段

九 段

内座 夕照(岡南)  
 内座 慶玲(岡南)

初 段

小波 航輝(岡大)  
 小宮 主人(岡大)  
 前田 美月(岡大)  
 内田 大葵(岡大)  
 葉廣 千夏(岡大)  
 前田 鉄兵(岡大)  
 清水 寛太(岡大)  
 宇都宮判代(総楽)  
 関 友里香(岡大)  
 帆足 聖(岡大)  
 貝原 亜海(岡大)  
 石井 佑季(岡南)  
 片岡紀久夫(岡南)

七 段

劍持 憧照(総楽)  
 池下 繙煌(岡南)  
 嶽 鷺爾(中山)

六 段

柴川 晃輝(岡大)  
 福井 雅通(総楽)  
 浅野 繙馨(岡南)

四 段

本田 雄也(岡大)  
 前田 貴一(岡大)  
 青木 繙紀(岡南)  
 上江 通天(総楽)  
 川田 萩南(総楽)  
 藤本 耀春(梢雲)  
 藤田 瞳慧(梢雲)  
 土井 耀峰(梢雲)  
 土井 耀桜(梢雲)  
 中尾 鷺恵(中山)

三 段

前田 雄也(岡大)  
 貴一(岡大)  
 繙紀(岡南)  
 通天(総楽)  
 萩南(総楽)  
 耀春(梢雲)  
 瞳慧(梢雲)  
 耀峰(梢雲)  
 耀桜(梢雲)  
 鷺恵(中山)

会員増員表彰

個人表彰

木谷 睨秀(岡山有朋支部)

## 令和5年度 鷺照吟詠会 年間事業計画

月	鷺照吟詠会		白鷺連合会		関西吟詩総本部		岡山県連合会			
	行事	研修会								
5/3	5 26	⑦常任理事会 (生涯学習センター) 総会 (生涯学習センター)	5	⑥研修会 (師範代)	11	常任理事会⑥	4 10 11 19	正副会 代議員選挙 正副・理事会 吟詠普及(西中国)	26	総会 (生涯学習センター)
4	16	①常任理事会 (生涯学習センター) 会報発行			1 15	競吟大会 (エーリック) 常任理事会①	8 15	正副会 正副・理事会		
5	14	前期競吟大会 (生涯学習センター) ②常任理事会	14	①研修会	6	総会 常任理事会②	13 19	元老相談役参与正副会 正副・理事会		
6					10	常任理事会③	3 10 11 18	総会・正副会 正副・理事会 特別研修会 昇格試験(地方)		
7	9	③常任理事会 (生涯学習センター) 合同昇段試験	9	②研修会 (師範)			1 16	正副会 昇格試験 (師範代・準師範・師範)		
8	27	④常任理事会 (生涯学習センター)			12	常任理事会④	5 12 20	正副会 正副・理事会 吟詠普及研修会(岡山)	20	競吟大会 (天神山文化プラザ)
9	24	後期競吟大会 (生涯学習センター)	24	③研修会			2 10	正副会 碑前祭 研修会		
10	15	⑤常任理事会 (生涯学習センター)				青年部大会	7 21 29	正副会 正副・理事会 90周年記念関西地区大会		
11	12 23	岡大65周年記念大会 (五十周年記念館) 集い(労金ビル)	23	④研修会	4	常任理事会⑤	4 12 19	正副会 新人・中間層大会 研修会 (師範・準師範・師範代)		
12							2 9 10	正副会 正副・理事会 師範代・準師範・吟士権者大会		
6/1	14	初吟会			7	新年互礼会 常任理事会⑥	6 8	正副会 代議員会議・新春吟詠大会		
2	4 11	チャリティーコンサート ⑥常任理事会 (生涯学習センター)	11	⑤研修会 (準師範)			3 ~4 10	吟道大学 正副会		
3	10 24	⑦常任理事会 (生涯学習センター) 総会 (生涯学習センター)	10	⑥研修会 (師範代)	16	常任理事会⑦	2 15	正副会 正副・理事会	24	総会 (生涯学習センター)

編集後記

新型コロナウイルスの終息に向けて明るい兆しが見えてきました。特に昨年は、競吟大会が前期・後期に分けて通常開催されるなど、ほぼ以前の状態に戻りつつあります。

編集担当になり七年。今回も多くの原稿をお寄せ頂きありがとうございました。それぞれの個性が十分発揮され、例年以上に自由投稿が多かったのは、会員の皆様の意欲の表れと感じ、多彩な表現力にうならされました。

私事で恐縮ですが、現在、母九四歳、私六二歳の老々介護真最中で、まさに「親を見て老いを知る」です。Wordの新機能についていけず、編集したデータを全消失してしまったり、病気の再発で身体の痛みと闘いながら作業したり、自らの老いや、「心身の健康とは」、「後悔なく生きる」とは、「己と闘う」とは」ということを、まざまざと感じさせられた一年でした。

コロナ明けの好機に、生きがいを持って生きることに詩吟を大いに活用し、「コロナが明けた時こそ」と思っていたことをやり尽くしましょう。私も今年には健康に気遣いながら精進致します。

(木南 春樹)